

感染症内科

部長 石田 正之

診療体制

今年の診療体制は昨年に引き続き、常勤1名体制で診療を行っている。業務内容としては、これまでと変わりなく、個々の感染症診療だけでなく、病院内の感染対策（Infection control team：ICT）、薬剤耐性菌抑制のための抗菌薬適正使用チーム（Antimicrobial Stewardship Team：AST）活動も担っている。

診療の実際

高知県内では感染症専門医・指導医がいる数少ない施設の一つとして、また感染症学会認定教育施設として感染症診療の原則に則った、診療の提供を心掛けている。

実際の業務としては、入院に関しては感染症の疑い症例、すでに感染症の診断がなされているが、治療経過が思わしくない難治症例、不明熱症例などに対してのコンサルトを中心に、主診療科と協働して治療にあたっている。また血液培養陽性例など、重度の高い疾患に関しては、コンサルトの有無にかかわらず、感染症の検知の時点から診療介入を行っている。実際昨年はのべ779症例に介入した。外来では不明熱や難治性感染症の紹介、梅毒などの性行為感染症の診療、感染症渡航関連感染症が疑われる症例を中心に診療を行っている。2021年開設した海外渡航・ワクチン外来については、2024年は新規受診者106名（のべ188名）の方に利用をいただいた。診療内容の詳細は表1,2に提示しているので参照頂きたい。

引き続き感染対策委員会やICTチームとの協力を通じて、院内感染対策にも力を注いでいます。ASTも活動も行い、年々その対応件数は増加をしている（2024年は、のべ1732例の症例に診療の介入を行った：図1,2）。昨年から行っている感染症を専門とする医療従事者がいない施設に対しても、電話やWebを用いた相談に応じる、もしくは実際に現場出向いて、現場の職員を直接教育しながら、感染対策の従事を図る、専門医療従事者の派遣活動も継続しており、昨年は8例の相談対応を行った。

昨年同様学会からは蚊媒介感染症専門医医療機関ネットワーク活動において、蚊媒介感染症専門医療機関（http://www.kansensho.or.jp/mosquito/medical_list.html）に指定されており、専門的な診療を継続している。

SARS-CoV-2感染症に関しては、その感染力に変化はなく、病院内では、常に二次感染の可能性など引き続き注意を要する。院内外を問わず、疑い患者の診断、陽性者の診療、感染予防対策に関しての対応に従事している。

以前より感染症の治療だけでなく予防にも力を入れており、その一環として、増加の一途をたどっている肺炎において、最も多い原因である肺炎球菌に対してのワクチン接種に関して、積極的に推奨を行っている。前述のように今ワクチン外来の開設により、より多くのワクチン接種に対応可能な環境を整備・強化をしている。

表1：渡航・ワクチン外来受診者の内訳

新規受診者数	106
渡航関連の新患	46
留学・学校イベント関連	21
仕事	14
ボランティア活動	1
観光	9
その他	1

表2：渡航関連受診者の内訳

受診目的（重複あり）	
ワクチン接種	45
英文診断書作成	14
健康診断	7
感染症関連抗体検査	21
マラリア予防内服	5
高山病予防内服	2
健康相談	1
渡航後検査	1

図 1： AST 相談件数の年次推移

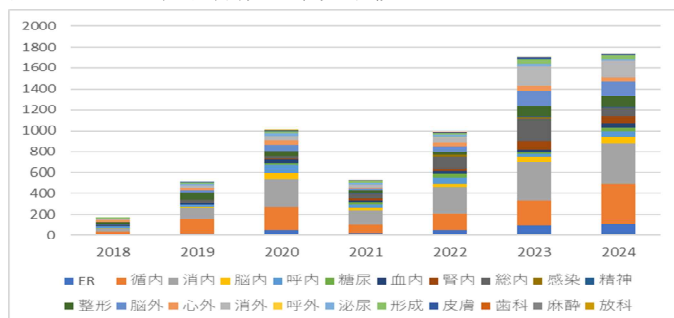
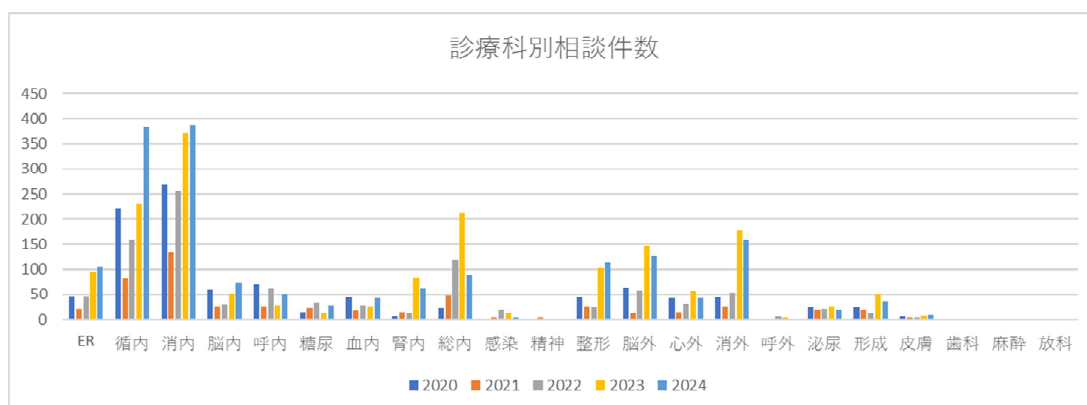


図 2：診療科別 AST 相談件数の年次推移



教育・研究

感染症診療に必要な不可欠な細菌検査技師、薬剤師とは定期的に、レクチャーや症例検討を行い、お互いの質の向上に努め、引き続き各種資格の取得のための研鑽を積んでいる。

昨年再開をした、1年間の継続プログラムによる感染症診療に関する基礎レクチャーに関しては、院内の職員のみならず他の病院、クリニックの看護師や薬剤師、保険薬局の薬剤師、保健所などの行政からの参加希望者があるなど反響が大きかった事、時を同じくして、感染症治療において、重要である薬剤耐性菌（AMR）によるサイレントパンデミック（人々が気付かないうちに世界規模の流行が生じる）に対してまだ国内での認識が十分でないという観点から、日本化学療法学会とファイザーGlobal Medical Grants が「AMR マネジメント推進のための医学教育に対するプロジェクト」に対して、支援・助成の全国公募があり、我々のプロジェクトが幸運にも採択（全国で4つのプロジェクトが採用）された事も重なり、2024年5月から、県内から広く公募して、36名（医師・看護師・薬剤師・検査技師・保健師・行政職員）の受講生を対象に、感染症診療の基本的考え方、AMR に対しての基本的な考え方、抗菌薬の適正使用を中心とした系統講座を開催しており、院内のみならず、県全体での感染症診療レベルの向上に努めている。

また学術的な展開としては、引き続き厚労省「成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの構築に関する研究」の研究班に属し、重症感染症の共同研究を継続している。国立感染症研究所と長崎大学との共同研究が行っている、日本人の新型コロナウイルスワクチンの有効性を明らかにする大規模疫学研究（VERSUS）も継続中である。加えて本年より日本の入院を要する呼吸器感染症の大規模疫学研究（APSG-J-2）にも参加し学術活動も積極的に行っている。

課題

メディカルスタッフの知識、能力は着実に向上し、現場の感染症診療チームとしての活動は着実に広がりを見せているが、ニーズに対して人員の不足から十分に対応を仕切れていないのが現状である。引き続き人材の育成、確保を行っていく。

学術発表・講演会等

学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
<i>Parvimonas micra</i> 膿胸症例の検討- 菌性疾患との関連を中心に-	石田 正之, 馬場 咲歩, 三枝 寛理, 中岡 大士	第 98 回感染症学会総 会	6 月 27 日～29 日 神戸
<i>Solobacterium moorei</i> による菌性感 染症から、蜂窩織炎、菌血症を生じ た一症例	秋澤 麗菜, 馬場 咲歩, 三枝 寛理, 中岡 大士, 石田正之	第 77 回高知県医師会 医学会	8 月 17 日 高知
急性膿胸症例における胸水培養に対 して、血液培養ボトルへの注入検体 を用いる事の有用性に関する検討	石田 正之, 馬場 咲歩, 藤原 絵理, 中岡 大士	第 94 回感染症学会西 日本地方会	11 月 14 日～16 日 神戸
<i>Actinotignum schaalii</i> (A. <i>schaalii</i>) による尿路感染症から菌 血症を生じた一症例	秋澤 麗菜, 馬場 咲歩, 中岡 大士, 石 田 正之	第 94 回感染症学会西 日本地方会	11 月 14 日～16 日 神戸
当院での <i>Eggerthella lenta</i> (<i>E.</i> <i>lenta</i>) 菌血症症例の検討	松田 莉奈, 馬場 咲歩, 中岡 大士, 石 田 正之	第 94 回感染症学会西 日本地方会	11 月 14 日～16 日 神戸
<i>Solobacterium moorei</i> による菌性感 染症から、蜂窩織炎、菌血症を生じ た一症例	田村 諒太, 馬場 咲歩, 中岡 大士, 石 田 正之	第 94 回感染症学会西 日本地方会	11 月 14 日～16 日 神戸
AST 介入により黄色ブドウ球菌菌血 症バンドル遵守率向上が臨床診療に 与えた影響について	高橋 佐和, 石田 正之	第 94 回感染症学会西 日本地方会	11 月 14 日～16 日 神戸

講演

演題	発表者 共同研究者	講演会名など	開催
CRE (カルバペネム耐性腸内細菌目 細菌) について	石田正之	高知市医師会生涯教育 カンファレンス	2 月 16 日 高知
外来で遭遇する呼吸器感染症の治 療戦略-抗菌薬の適正使用の観点か ら-	石田正之	安芸医師会講演会	6 月 6 日 高知
感染対策を実践するための感染症 の基礎知識	石田正之	高知県感染管理担当者 研修会	9 月 28 日 高知
高齢者施設・障がい者施設従事者 における耐性菌の基礎知識 耐性 菌は一体何が問題なのか	石田正之	高知エリア医療関連感 染対策地域支援ネット ワーク施設内感染対策 研修会	10 月 25 日
高齢者肺炎予防における肺炎球菌 ワクチンの位置づけ	石田正之	MSD 感染症 Web セミ ナー	11 月 6 日
抗菌薬の適正使用に必要な感染症 診療の原則	石田正之	看護師特定行為フォロ ーアップ研修会	11 月 10 日

論文発表・著書

タイトル	執筆者 共同執筆者	掲載誌 出版社	巻・号 ページ
Pulmonary function and chest CT abnormalities 3 months after discharge from COVID-19, 2020- 2021: A nation-wide multicenter prospective cohort study from the Japanese respiratory society.	Kamata H, Takamatsu K, Fukunaga K, Chubachi S, Nakagawara K, Namkoong H, Terai H, Tanaka K, Sato S, Hagiwara E, Takei R, Kondoh Y, Takazono T, Hashimoto M, Tasaka S, Ohru T, Tanino Y, Mineshita M, Komase Y,	Respir Investig.	Vol.62 pp.572-579

	Miyazaki K, Nishikawa M, Ando A, Kita H, Ichihara E, Ohshimo S, Murata Y, Ishida M, Kobayashi S, Uchida T, Tateno H, Ikari J, Terashima T, Kozu Y, Tateishi T, Shinkai M, Sagara H, To Y, Ito Y, Yamamoto M, Yamamoto Y, Kita T, Ito Y, Tomii K, Fujita Y, Funaki Y, Yatera K, Yamasue M, Komiya K, Kozawa S, Manabe H, Hozumi H, Horiguchi T, Kitajima T, Nakano Y, Nagaoka T, Hojo M, Ebihara A, Kobayashi M, Takayama K, Jinta T, Sawai T, Fukuda Y, Kaneko T, Chin K, Ogura T, Mukae H, Ishii M, Yokoyama A.		
Effectiveness of primary series, first, and second booster vaccination of monovalent mRNA COVID-19 vaccines against symptomatic SARS-CoV-2 infections and severe diseases during the SARS-CoV-2 omicron BA.5 epidemic in Japan: vaccine effectiveness real-time surveillance for SARS-CoV-2 (VERSUS).	Maeda H, Saito N, Igarashi A, Ishida M, Terada M, Masuda S, Osawa R, Hosokawa N, Nakashima K, Kamura H, Imura H, Inoue H, Matsuzaka S, Sugimoto Y, Kuwamitsu O, Motohashi I, Morikawa T, Oda R, Hoshina Y, Matono T, Teshigahara O, Sando E, Asami S, Kudo S, Akizuki N, Muto Y, Hayakawa T, Kishaba T, Ohara Y, Kubo Y, Suzuki M, Morimoto K.	Expert Rev Vaccines.	Vol.23 pp.213-225
気管支鏡の洗浄・消毒指針	笹田 真滋, 栗野 暢康, 石田 正之, 内村 圭吾, 鍋木 孝之, 鳥羽 博明, 猶木 克彦, 西井 洋一, 姫路 大輔, 日本呼吸器内視鏡学会学術委員会気管支鏡の洗浄・消毒に関するワーキンググループ	気管支学	Vol.46 pp.381-400
呼吸器内科診療の掟 Chapter25 膿胸（急性膿胸を中心に）	中島啓（編集） 石田正之	中外医学社	Pp240-249.